

TOVE JANSSON



ムーミン童話全集⑧

ムーミン谷の十一月

Sent i november



トーベ・ヤンソン＝作・絵
鈴木徹郎＝訳

ムーミン童話全集⑧

ムーミン^{だに}谷の十一月^{がつ}

1990年12月 5 月 第 1 刷発行

1999年 3 月19日 第15刷発行



著 者——トーベ・ヤンソン

訳 者——鈴木徹郎^{すずき てつろう}

発行者——野間佐和子

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽 2 - 12 - 21

郵便番号 112-8001

電話 出版部 03-5395-3535

販売部 03-5395-3625

製作部 03-5395-3615



印刷所——豊国印刷株式会社

半七写真印刷工業

製本所——牧製本印刷株式会社

N. D. C. 993 310p 22cm

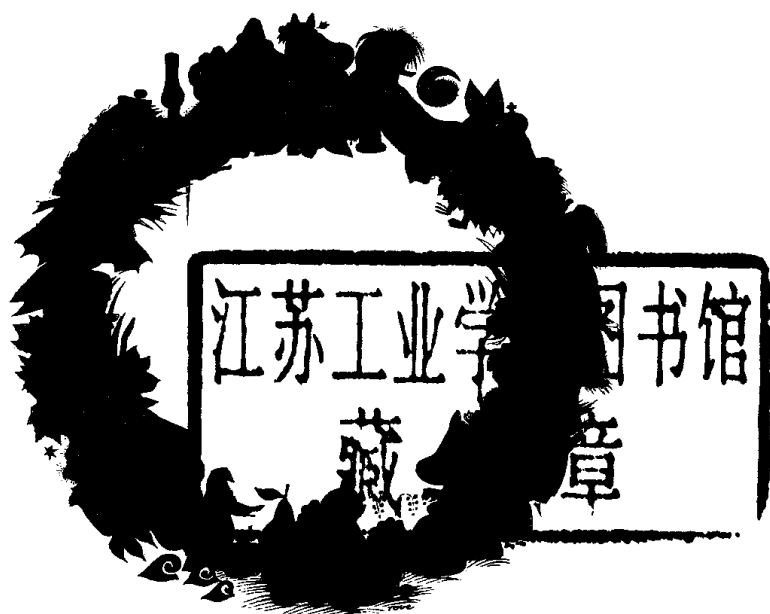
©Seiko Okada 1990 Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。

本書の無断複写（コピー）は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。[R]日本複写権センター委託出版物

落丁本・乱丁本は、ごめんどうですが、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にておとりかえいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、児童図書第一出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-188228-7 （児一）



ムーミン童話全集⑧

ムーミン谷の十一月





もぐじ contents

第一章 だいいしょう
10

第二章 だいいしょう
20

第三章 だいいしょう
28

第四章 だいいしょう
42

第五章 だいいしょう
46

第六章 だいいしょう
57

第七章 だいいしょう
73

第八章 だいいしょう
82

第十一章 だいいしょう
119

第十二章 だいいしょう
140

第十三章 だいいしょう
167

第十四章 だいいしょう
177

第十五章 だいいしょう
190



第九章 だいいしやう

91

第十章 だいいしやう

106

第十六章 だいいしやう

200

第十七章 だいいしやう

214

第十八章 だいいしやう

233

第十九章 だいいしやう

260

第二十章 だいいしやう

279

第二十一章 だいいしやう

295

解説 かいせつ

306



ムーミン家

今回は、ムーミン谷をるすにしています。
いったいどこへ行ってしまったのでしょうか？



ミムラ

ちびのミイのおねえさん。たまねぎ頭のしつかり者。
なんとなくミイに会いたくなつて、
ムーミン谷にやってきましたが……。



スナフキン

ムーミンの親友、五つの音色をつかつて、
雨の曲をつくろうとしますが、その音色が
できません。そこでムーミン谷にかえってみます。



ご先祖さま^{せんぞ}

ムーミン家のストーブの中に、
いまでも住んでいるというのですが、
だれも見えた人はいません。



ホムサ

自分^{じぶん}でお話^わをつくるのが大^おすきな少年^{しょうねん}。
ムーミンママに会^あいたくな^なって、
ムーミン谷^{ムーミンタリ}にや^やってき^きます^が……。

ヘムレン

ヨット^{ヨット}をも^もって^はい^いる^けれ^ど、
こ^こわ^くて^まだ^のつ^たこ^はあ^あり^ませ^ん。
ムーミン^{ムーミン}パ^パと^と話^わを^をし^した^くな^なっ^て……。

スクルツタ

自^じ分^{ぶん}の^の名^なま^ええ^えさ^わす^れて^しま^った^おじ^いさ^ん。
パ^パー^{ティー}を^をひ^らい^てほ^しく^て、^旅に^でて、
ムー^{ミン}谷^{タリ}に^やっ^てき^きます^が……。

フリフヨンカ

そ^うじ^が大^おす^きで^した^が、^ある^日と^つぜ^ん、
き^らい^にな^って^しま^います^が……。
そ^して、^{ムー}ミ^ン一^{いっ}家^かに^あい^にき^きます^が……。

art direction 長友啓典 design 達川淳 + K^②

ムーミン谷の十月



第 1 章



スナフキン、旅^{たび}にでる

ある朝はやく、スナフキンは、ムーミン谷のテントの中で、目がさめました。あたりは、ひっそりしずまりかえていました。しんみりとした秋のけはいがします。旅^{たび}にでたいなあ。

ほんとにふいに、どこもこれも、しんみりとしてきたのです。あたりのようすは、もう、なにもかも、いままでとは、がらっとかわっていました。旅^{たび}にでようと思いたった人には、いつときいつときが、身^みのちぢむ思いでした。

スナフキンは、テントのくいをひっこぬきました。まっ赤^かな炭火^{すみび}をけしました。じゃまがはいった

り、人にうるさくきかれないうちにと、スナフキンは、リュックを肩かたにひっかつぐまもどかしく、むちゆうで走りだしました。

走りだすと、きゆうにほっとしました。葉はのすみずみまで、のびのびとくつろいでいる、ぽつんと一本はなれてたった木のように、ゆったりした気持きもちちになったのです。テントをひきはらったあとには、テントのあとを教えるように、そこだけ、かれ草が長方形にかたまって、寒々さむざむとのこりました。

あとで友だちが目をさましたら、こういうでしょうね。

「あいつ、旅たびにいったよ。秋になったんだねえ。」
って。

スナフキンは、しずかに、かるやかに、歩いていきました。まわりは、すっぽりと、森につつまれました。

雨がふりだしました。スナフキンのみどり色のぼうしにも、ぼうしとおそろいの、みどり色のレインコートにも、雨がおちてきました。サラサラ、シトシトと、雨の音が、あたりいちめんにひろがっていきました。

森にかくれて、すっかりひとりぽちになってしまったスナフキンは、なんともいえない、な

ごやかな氣持ちになりました。

海のほとりには、山にはさまれた谷間が、いくつもいくつもありました。海のぐるりを取りまいてゐる山々は、海べぞいに大きくまがりくねりながら、みさきになったり、入り江をつくったりしています。そして、山々のすそは、はるかはてしないジャングルの中にきえています。

ひとりぐらしのフィリフヨンカが住んでいる谷がありました。スナフキンは、これまでに、たくさんのフィリフヨンカの仲間にあつたことがありました。ですから、フィリフヨンカには、めいめい、みょうなくせがあつて、ふうがわりで、自分かつてなくらしをしないではいられない、ということを知っていました。でも、このフィリフヨンカの家の前をとつたときばかりは、スナフキンも、思わず、はつと息をのんでしまいました。

かきねには、さきのとがつた、きりつとまっすぐなぼうぐいさが、ずらりとうちこんであり、門には、錠がおりてゐるのです。

庭の中ときたら、まるつきりからつぽ。ものほしづなはとりこまれ、まきの山もきえています。ハンモックもないし、庭いすも、庭テーブルもありません。

夏なら、うちのまわりには、よく、しまいわすれたくまでとか、バケツ、うっかりおいたままのぼうし、ねこにやるミルクのおさらなど、とりとめもなくちらかつていて、見るからにたのし



くなってしまうものなの
に。なにかもがほうりだ
されたまま、あしたになる
のをまっているなんて、の
どかで、人の住^すんでいる家
らしくて、いい気持^きちのもの
なのに。なにしろ、そう
いうものが、まるっきりな
いのです。

このファイリフオンカは、
もうすっかり秋になったの
を知っていました。そし
て、うちのおくに、とじこ
もってしまったのです。家
は、すっかり戸じまりされ

て、まるであき家のように見えました。でも、彼女はちゃんと中にいました。厚い、大きなかべをいくつもへだてた、うちの、いちばんおくのへやにいました。そのへやは、まどさえ、もみの木のへいのかげにかくれて、外からは見えませんでした。

冬もま近な、ひっそりした秋のひとときは、寒々として、いやなときだと思ったら大まちがいです。せつせと、せいっぱい冬じたくのたくわえをして、安心なところにしまいこむときなのですから。自分のもちものを、できるだけ身近に、ぴったりひきよせるのは、なんとたのしいことでしょう。自分のぬくもりや、自分の考えをまとめて、心のおくふかくほりさげたあなに、たくわえるのです。その安心なあなに、たいせつなものや、とうといものや、自分自身までを、そっとしまっておくのです。

やがて、きびしい寒さや、たけりくるうあらしや、長い暗やみが、思いっきりおそってくるでしょう。あらしは、あちこちのかべを手さぐりして、はいりこむ入り口を見つけようと、必死になるでしょう。

でも、どこもみんなふさがっていて、中では、とくに、こんなときを見こしていた人が、ぽかぽかあたたかにして、ひとり、ゆったりと、くすぐすわらっているのです。

秋になると、旅にでるものと、のこるものとにわかれます。いつだって、そうでした。めいめ



いの、すきずきでいいのです。

でも、ぐずぐずしていて、とりかえしのつかなくならないうちに、どちらにするのか、きめなくてはなりません。

フィリフオンカは、うちのうらがわで、じゅうたんたたきをはじめました。拍子^{ひょうし}をとって、はげしくたくその音をきけば、フィリフオンカは、じゅうたんたたきがすきだなって、だれにでもわかるような音でした。

スナフキンは、どんどんさきへ進^{すす}みました。パイプに火をつけて、もう、ムーミン谷では、みんな目をさましたころだろうな、と思いました。

ムーミンパパは、時計のねじをまいて、それから、一日まきの気圧計^{きあつけい}のねじをまいているだろうな。ムーミンママは、かまどに火をもしつけているだろうな。ムーミントロールはベランダにでて、おや、テントがなくなっちゃった、テントのところがからっぽだ、と、気がついていだろうな。それから、橋^{はし}のたもとの郵便箱^{ゆうびんばこ}をのぞくぞ。でも、その中からっぽ。

そうだ、ぼくは、おわかれのあいさつを手紙に書いて、いれてくるのを